

潜在リスクの 先取り管理を

大豊建設の益田社長
2現場をパトロール

大豊建設の益田浩史社長が2日、都内で施工している2カ所の現場を安全パトロールし、作業環境や安全管理の状況を確認した。パトロールは東京土木支店の「目黒川防潮堤耐震補強工事（その1、その2、その3）」と、東京建築支店の清掃工場新築工事で実施。益田社長は講評で「現場は会社にとって最大の営業で



あり、安全や品質に問題が生じれば、それまでの成果が失われてしまう。小さな危険要因を見逃さず、潜在的なリスクを先取りして管理しよう」と呼びかけた。写真（大豊建設提供）。

パトロールには、中村百樹取締役兼専務執行役員建築本部長や原肇安全環境部

長ら経営幹部が同行した。終了後、益田社長は東京都中央区の本社でVR（仮想現実）による安全体感教育を体験。VRは若手職員の災害防止と安全意識向上を目的に導入した。トップが体験することで、今後の安全施策や意思決定に反映していく姿勢を示した。

